

図書館だより

魔法の言葉と言葉の魔法

図書館長 村田 和穂



「言葉とは・・・尽きることのない魔法の源、傷つけることも癒すこともできる力がある。」

(“Words are . . . our most inexhaustible source of magic, capable of both inflicting injury and remedying it.”)

(映画『ハリー・ポッターと死の秘宝 Part 2』より)

有明高専では、2年前から2年生全員を対象に「課題研究Ⅰ」という科目を前期に開講し、17人の教員による1講座あたり13名前後の少人数授業を展開しています。昨年度、私に授業担当のお鉢が回ってきたので、常々やりたと思っていた“「ハリー・ポッター」シリーズを原書で読む”に挑戦しました。授業の進め方は、試行錯誤の末、第1作『賢者の石』から第7作『死の秘宝』までそれぞれ2名ずつ担当を決め、まず作品を翻訳で読み、次に映画を見て両者の違いをまとめ、本の中で最も興味深いと思った箇所を原書で調べて発表してもらうという形式にしました。こちらが指定した英文ではなく、自分が気に入った台詞などを原典から調べる、というミッションは学生にとっても「やらされている」感が少ないようで、皆、生き生きとした表情で取り組んでくれました。その結果、「リラックスした雰囲気」と「(アカデミックな?) 議論」と「笑い (laugh と smile)」に満ちた授業になったのは言うまでもありません。私自身大いに楽しみ、勉強させてもらったので、今年度も「是非やらせて!」と手を挙げた次第です(今年は更に充実していたように感じます)。この2年間「ハリー・ポッターの世界」にどっぷりと浸かって、色々と思うところもあり、今回はそのことについて少し書いてみることにします。

「ハリー・ポッター」には実に様々な魔法の言葉、いわゆる「呪文」が使用されています。例えば、呼び寄せ呪文「アクシオ(～よ来い)」や敵に襲われた時の「エクスペクト・パトローナム(守護霊来たれ)」など、こんなのがあればいいなあ、というのが無数に出てきます。その一方で「禁じられた呪文」というのもあり、その筆頭に挙げられるのが「アバダ・ケダブラ」という死の呪文です。「闇の魔法使い」がこの呪文を唱えると、杖の先から緑の光が噴出し、相手は即死してしまうという何とも恐ろしいものです。皆さんの中には、こんな魔法の言葉なんてフィクションにつきものの絵空事に過ぎない、と思っている人も多いのではないのでしょうか? 懾りながら、フィクションだからこそ描ける真実がある、と信じる私にとっては決して絵空事には思えないのです。最終巻(第7巻)『死の秘宝』の35章「キングズ・クロス」を原作で読み、さらに映画版でその箇所を見てその思いは一層強くなりました。前章(34章)の最後、暗い森の中でハリーは闇の帝王ヴォルデモートの死の呪文を「故意に」受けるのですが、この章では一転して明るい霧が立ちこめる光の世界が描かれます。どうやらこの章はハリーの「臨死体験」を描いているようです(キングズ・クロスはロンドンに実在する鉄道の駅なので、「あの世」への旅立ちを象徴している。映画版もこの場面の映像は秀逸!)。この不思議な場所でハリーは前巻で亡くなったホグワーツ魔法学校のダンブルドア校長と再会します。冒頭に引用した言葉はダンブルドア先生が別れ際にハリーに掛ける言葉なのです(この後ハリーは蘇生し、ヴォルデモートとの最後の戦いに臨む)。

興味深いことに、この言葉は原作にはなく映画版にのみ見られるのですが、私には作者のJ. K. ローリングが「なぜこの物語を書いたのか?」という問いに対する答えとして、新たに書き加えた言葉のように思えてなりません。(注) 私たちが口にする言葉は時として人を傷つけることがあります。何気ない一言のつもりでも、言われた当人はその言葉に囚われ、心を病み、最終的に「死(自殺あるいは殺人)」に追い込まれることもあるかもしれません。もしそのようなことになれば、その一言を口にした人は結果的に「アバダ・ケダブラ」という呪文を使ったのではないかと私は考えるようになりました。その意味で、私たちは言葉という魔法を使える(ハリーや逆にヴォルデモートと同じ)「魔法使い」でもあるのです。学生の皆さんには、人を傷つけるのではなく傷ついた人を癒せるように、この魔法を適切に使える人になって欲しい、私は心からそう願っています。

注: 映画版の脚本にはスティーヴ・クローヴスが単独でクレジットされている。しかし、この極めて重要な場面で、作品全体のテーマと密接に関係する台詞を脚本家が独断で加筆したとは考えにくい。よって、私は原作者自身の言葉と考えたい。



私のイチオシ



創造工学科人間・福祉工学系
情報システムコース 森 紳太郎先生

推薦図書2冊を紹介します！



『アルジャーノンに花束を』（ダニエル・キイス作）

作者のダニエル・キイスはこの他にも解離性同一性障害（いわゆる多重人格）を題材にした『五番目のサリー』や『24人のビリー・ミリガン』など、人間の心理を扱った作品を書いている。小説のタイトルになっている「アルジャーノン」とはハツカネズミの名前です。

この小説は2002年に日本でテレビドラマに、さらにもっと以前の1968年にアメリカで「まごころを君に」と言う邦題の映画になっている。その日本のドラマを始めは見ていたけれど、残念ながら小説には遠く及ばなくて途中で見るのを止めてしまった。映画も、おそらく小説を越えることは出来ていないだろう。

それくらい、この物語は「1人称で書かれた報告書」という形態でしか成立し得ない作品です。読者一人ひとりの頭の中に主人公の主観が形づくられるからこそこの物語を味わうことができるので、ドラマや映画で役者が演じてしまうと、どうしても物語の傍観者となってしまうからです。

また、この小説はSF作品なのですが、SFというジャンルでなければこの物語の設定そのものが成立し得ない作品です。SFというのはスーパーヒーローやエイリアンや超能力が登場しなくても可能なのです。主人公の転換によって世界が変化したように見えて、実際は変わっていない世界と変わってしまった主人公との間に生じる出来事を表現するためにはSFでなければならなかったのです。

この小説の「ぼく」はチャーリー・ゴードンという、30歳過ぎて6歳くらいの知能しかない男性ですが、大学で最先端医療である脳外科手術を受けて誰よりも高いレベルの知能を獲得する。ところが、そうやって「賢く」なったとき、それまで自分が周囲の人間にどのように「扱われていたか」を理解する。自分が親や親しい友人と思っていた人たちから逆にどのように思われていたか、親身になって付き合ってくれていた大学の研究者は自分を研究対象としてしか見ていなかったのか。手術によって他の人を圧倒する知能を身に付けることはできても、感情が追い付かないチャーリー・ゴードンは苦悩することになる。

この作品は1人称で書かれているために、小説の冒頭を読み始めると驚いてしまうような文章になっている。そしてそれは物語が進むにつれて変化していく。原作ではこの変化は当然英単語で表現されているのですが、それを日本語でこのように表現した翻訳は実に見事です。あるいは日本語訳の方が読み手に訴える力は大きいものがあるかも知れません。

一気に最後まで読み通す時間があるときに読んで、読書によって感情を揺さぶられる体験ができれば良いと思います。



『重力の使命』（ハル・クレメント作）

地球という星についてちょっと考えてみると、一周すると40,000kmのほぼ球形で、24時間で1回の自転をして重力は1G。自分が生きている星だから、なんとなくこんなものだという事は分かるだろう。

ではこんな想像をしてみしてほしい。

「その惑星の質量は地球の約5000倍もあるので極地での重力は670Gとなり地球で体重60kgの人はなんと体重40トンにもなる。ところが、この惑星は1日が17分45秒という高速で自転しているので、惑星は楕円形に変形していて遠心力の影響を受ける赤道付近では重力が3G程度になる。」

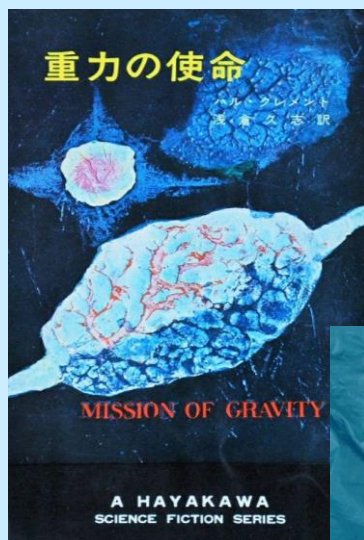
作者のハル・クレメントはこういう惑星メスクリンを真面目に想像して、そこを舞台にしたSF小説を書いた。この高重力の惑星では僅かな高さからの落下が致命傷になり、生命がいるとしても人間タイプではない。この惑星で知性と文明を持っているのはムカデとザリガニのキメラのような体長50cmほどの多足生物であるメスクリン人である。

この惑星の極地地方に不時着した地球の人工衛星を、人類はその670Gという高重力のために回収することができない。かろうじて赤道付近で活動できる人類はメスクリン人に人工衛星の回収を託す。という訳で、物語のほとんどを通して描かれるのはこの奇妙な姿をしたメスクリン人たちで、地球人はほぼ会話の相手としてしか登場しない。

もともと化学の教師であった作者のハル・クレメントはこのような惑星を舞台として着想した後で、そこで起きる気象や物体の運動が科学的に破綻しないように慎重に異世界を構築している。物理や科学と矛盾しないような舞台で描かれるSFをハードSFといいますが、この作品はハードSFの傑作です。

だからと言って物理や科学が分からないと面白くない難解な小説ではありません。物語のベースはハル・クレメントが緻密に構築した異世界で、メスクリン人が様々な困難を乗り越えて人工衛星を回収しにいく、手に汗握る冒険物語です。作者が構築した世界を自分の想像力でどこまでイメージできるか、あれこれ考えながら読むという楽しみ方もできます。

そして衛星の回収という、メスクリン人にとってはそれほどメリットがない仕事をなぜ彼らが請け負ったのか少々謎めいたところもあるのですが、それがあきらかになり、その帰結となるラストシーンに私はちょっとした感動を覚えました。大袈裟に言えば「科学する心」を失っていない少年少女のうちにこの作品を体験して欲しいと思います。



原作（英語版）

アマゾンで検索すると、現在新刊で入手できるのは東京創元社の創元SF文庫にある井上勇訳『重力への挑戦』で、早川書房のハヤカワ文庫SFで浅倉久志訳『重力の使命』は古書でしか手に入らないようです。

翻訳された年代としてはハヤカワ版の方が新しくて訳文の流れがスムーズで、巻末にはどうやって惑星メスクリンの世界を構築していったかをハル・クレメント自身が書き綴った「メスクリン創成記」も収録されているのでこちらがおすすめだと思います。ただし、表紙にはメスクリン人が描かれているので、そういうのが苦手な人は用心して下さい。

「第1回ブックハンティング」を開催しました。

「ブックハンティング」とは、図書館に置きたい本を書店に行ってもらって、学生自身に直接選んでもらうイベントです。今回は7名の学生に参加してもらい、幅広いジャンルの中から、以下の71冊の本を選んでもらいました。

12月に第2回を開催予定ですので、是非参加してみてください。



ディスプレイ（特設コーナー）



書店前

《今回参加してくれました学生7名の選書の一部を紹介します。》

本人のハンドメイドのPOPを添えて、図書館特設コーナーに展示していますので、是非、ブックハンター達の選りすぐりの珠玉の一冊をご覧ください！



「任務の終わり」

スティーヴン・キング作

スティーヴン・キングが書いた
ミステリー-の3部作の完結編
です。この作品、分う読んでも
よもしろいのでぜひ読んで
みてください。



創造工学科1年
竹森 洸太さん

「余命10年」

小坂流加作

二十歳で、数万人に一人という不治の
病にたづね、余命が10年とな
った主人公の物語です。
死ぬまで恋愛をしないと決め
た主人公ですが...
僕の好きな作品の中でも、と
おすすめの一冊なのでぜひ読んで
みてください。



「君に恋をねなんて

ありえないはずだった」

作：笹田 かつら

高専ではありえない(?)恋愛小説
ラストに必見です!!



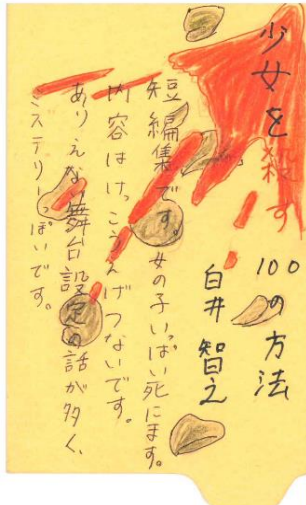
創造工学科3年
鈴木 航平さん

「HELLO WORLD」

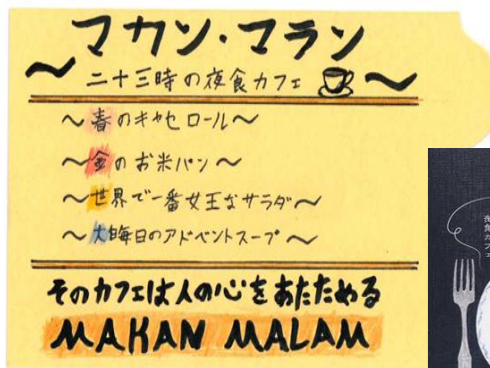
作：野崎 浩

一風変わった新感覚SFです。
映画化もされているのでぜひ!!

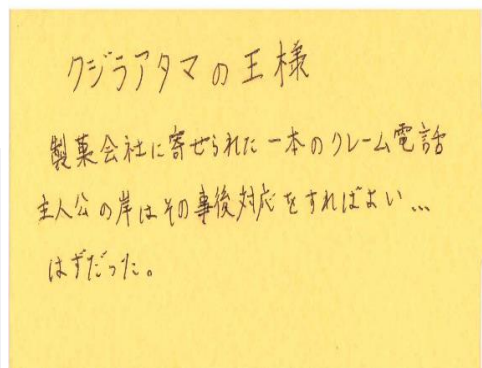




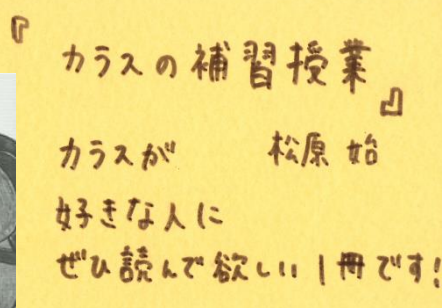
創造工学科3年
中村 奈月さん



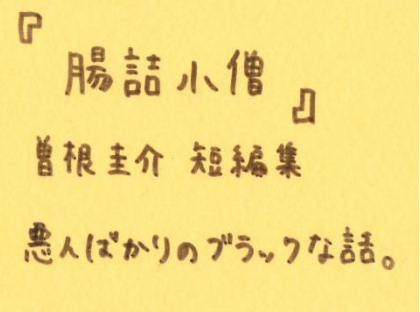
創造工学科3年
佐藤 凜太郎さん



創造工学科3年
堤 久晃さん



創造工学科3年
山内 日那さん





「ケーキの切れない非行少年たち」

「自分はやさしい」という殺人少年、感情の表し方を知らない子...

非行に走ってしまった少年達、彼らが見えている世界とは一体...?



「奇書の世界史」

誰も読んだことのない植物書から、嘘でぬり固めた旅行記まで。

その本たちがたどった数奇な運命を紐解く...!

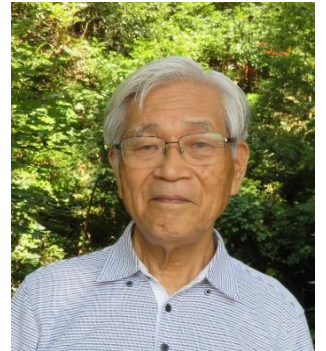
電子情報工学科5年
椎葉 千里さん



	書籍名	著者		書籍名	著者
1	神様のコドモ(幻冬舎文庫 や-13-18)	山田 悠介	37	星の子	今村 夏子
2	いまさら翼といわれても(角川文庫 よ23-6)	米澤 穂信	38	生のみ生のままで<上>	綿矢 りさ
3	生きてさえいれば(文芸社文庫NEO こ5-2)	小坂 流加	39	生のみ生のままで<下>	綿矢 りさ
4	余命10年(文芸社文庫NEO こ5-1)	小坂 流加	40	幽霊塔	江戸川 乱歩
5	心霊電流<下>	スティーヴン・キング / 峯村 利哉	41	プログラミング言語図鑑～プログラミング言語の現在・過去・未来…知ればもっと楽しめる!～	増井 敏克
6	心霊電流<上>	スティーヴン・キング / 峯村 利哉	42	戦場のコックたち(創元推理文庫 Mふ7-2)	深緑 野分
7	任務の終わり<下>	スティーヴン・キング / 白石 朗	43	ケーキの切れない非行少年たち(新潮新書 820)	宮口 幸治
8	任務の終わり<上>	スティーヴン・キング / 白石 朗	44	岩田さん～岩田聡はこんなことを話していた。～	岩田 聡/糸井 重里
9	心霊探偵八雲<11> 魂の代償	神永 学	45	とりあえずウミガメのスープを仕込もう。	宮下 奈都
10	宇宙兄弟今いる仲間であまういくチームの話	長尾 彰	46	奇書の世界史～歴史を動かす“ヤバイ書物”の物語～	三崎 律日
11	小説秒速5センチメートル(角川文庫 し57-1)	新海 誠	47	数の女王	川添 愛
12	小説言の葉の庭(角川文庫 し57-2)	新海 誠	48	映画とキリスト	岡田 温司
13	君に恋をするなんて、ありえないはずだった(宝島社文庫 Cい-14-1)	筏田 かつら	49	Steve Jobs: The Man Who Thought Different: A Biography P 320 p. 12	Blumenthal, Karen
14	朝が来る(文春文庫 つ18-4)	辻村 深月	50	Different Seasons paper 688 p. 12	King, Stephen
15	小説 空の青さを知る人よ(角川文庫 お74-11)	額賀 滯	51	National Geographic Almanac 2020: Trending Topics - Big Ideas in Science - Photos, Maps, Facts & More P 400 p. 19	National Geographic
16	HELLO WORLD(集英社文庫 の10-1)	野崎 まど	52	Killing Commendatore H 686 p. 18	Murakami, Haruki
17	小説 天気の子(角川文庫 し57-7)	新海 誠	53	The Life-Changing Magic of Tidying Up: The Japanese Art of Decluttering and Organizing(Life Changing Magic of Tidying Up) H 213 p. 14	Kondo, Marie
18	いなくなれ、群青(新潮文庫nex こ-60-1)	河野 裕	54	Excel最強の教科書～完全版～	藤井 直弥/大山 啓介
19	螺旋の手術室(新潮文庫 ち-7-71)	知念 実希人	55	フェルマーの最終定理～ピュタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで～	サイモン・シン/青木 薫
20	天久鷹央の推理カルテ(新潮文庫nex ち-7-1)	知念 実希人	56	物理学は歴史をどう変えてきたか～古代ギリシャの自然哲学から暗黒物質の謎まで～	アン・ルーニー/立木 勝
21	君に恋をするなんて、ありえないはずだった～そして、卒業～(宝島社文庫 Cい-14-2)	筏田 かつら	57	そして、ボタンは渡された	瀬尾 まいこ
22	夢見る帝国図書館	中島 京子	58	我らが少女A	高村 薫
23	天国旅行(新潮文庫 み-34-12)	三浦 しをん	59	少女を殺す100の方法	白井 智之
24	マカン・マラン～二十三時の夜食カフェ～	古内 一絵	60	トコトンやさしい電磁気の本(B&Tブックス)	面谷 信
25	女王さまの夜食カフェ～マカン・マラン ふたたび～	古内 一絵	61	僕は君に、10年分の『』を伝えたい。	天野 アタル
26	FACTFULNESS～10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣～	ハンス・ロスリング / オーラ・ロスリング / アンナ・ロスリング・ロンランド / 上杉 周作 / 関 美和	62	逃げ出せなかった君へ	安藤 祐介
27	罪の轍	奥田 英朗	63	カラスの補習授業	松原 始
28	ヘミングウェイで学ぶ英文法	倉林 秀男/河田 英介	64	むらさきのスカートの女	今村 夏子
29	希望の糸	東野 圭吾	65	科学する心	池澤 夏樹
30	孤絶～家族内事件～	読売新聞社会部	66	腸詰小僧～曾根圭介短編集～	曾根 圭介
31	ユートピア	湊 かなえ	67	魔眼の匣の殺人	今村 昌弘
32	この世の春<上>	宮部 みゆき	68	世にも奇妙な人体実験の歴史	トレヴァー・ノートン
33	あやかし草紙～三島屋変調百物語伍之続～(三島屋変調百物語) [5]	宮部 みゆき	69	自作マニアのための小型モーター・パーフェクトブック～基礎から学んでArduino & Raspberry Piによる制御を楽しもう～	マシュー・スカルビノ / 百目鬼 英雄
34	この世の春<下>	宮部 みゆき	70	「死」とは何か～イエール大学で23年連続の人氣講義～	シェリー・ケーガン
35	長く高い壁	浅田 次郎	71	クジラアタマの王様	伊坂 幸太郎
36	珈琲屋の人々～宝物を探しに～(「珈琲屋の人々」シリーズ) [3]	池永 陽			

特別寄稿

本校名誉教授（元機械工学科教授）
田口 紘一先生



著者近影

「記紀」から読み解く 『魏志』倭人伝とその後の倭国 一軍師張政の策と卑弥呼、そして天孫降臨一

上記の拙著を図書館においていただけることになったので、簡単な紹介をいたします。

まず、この研究を始めた動機は「謎解き」です。私は有明高専に在職中、研究面では、学生の卒業研究指導のためのテーマのほかに次のテーマを探すために、毎年度の初めに十ほどの課題を挙げ、理論を詰めることをしていました。理論を詰めるということは、今、世のなかでよくわかっていない謎とされていることがらを、こうではないかと推論することです。理論がつまると実験や理論に基づく物づくりを行って、それを実証するのです。二、三か月で推論できたものもあれば、延々三十五年かかったものもありました。謎解きは私の最も興味のあることでした。

このように常に謎解きに頭を巡らせてきたのですが、退職後、さて老後の謎解きのテーマを何にするかを考えたとき、頭に浮かんできたのが日本の古代の謎とされている、三世紀にいたとされる女王卑弥呼の謎だったのです。「女王卑弥呼」は、陳寿という人が書いた中国の歴史書『三国志』の中で日本（倭と表現されています）のことが書かれていて、そこに登場する女王です。諸葛亮孔明や関羽たちが大活躍し、小説になっているのは『三国志演義』で別物です。女王卑弥呼は、邪馬台国を都としていて、南の狗奴国と争いをしている、不利になったのか、中国の中で争っていた三国の一つ北側にある国で当時優勢であった魏に救援を求め、魏は救援のため張政という人物を倭へ送り込んだのです。その後、卑弥呼が死に、男王、女王台与と倭の王が代わったことが記されているのですが、そこまでで、その後のことはさっぱりわからないのです。その後百数十年にわたって中国の史書に倭が登場しないのです。

また、『三国志』には、魏使の九州北部までの経路は詳しく書かれているのですが、その先の邪馬台国がどこにあったのかもわかっていない状態なのです。大牟田市の北隣のみやま市山門町の「ヤマト」が邪馬台国（「ヤマタイコク」と読むのが通例ですが「ヤマト」とも読めます）ではないかという研究者もいますが、奈良県の大和という考えの人も多いのです。

日本には『日本書紀』『古事記』（あわせて「記紀」ともいう）という神代の時代から建国以来のことを記した歴史書があるのですが、これも五世紀以前のことは疑問が多いのです。『日本書紀』では初代天皇神武は紀元前六六〇年に即位したことになっていますが、考古学的には縄文時代末期あるいは弥生時代初期となり、とても日本の広範囲を支配していた国があったとは考えられないのです。

また、「記紀」のなかに卑弥呼に相当する人物が描かれているかについても、「いない」を含めて意見がバラバラです。

また、現在に引き継がれている事実にも多くの謎があります。たとえば「神武天皇は初代天皇なのに大事にされていない（祀る神社が非常に少ない、なぜか天草には多い）、天皇家の祖神はなぜ天照大神なのか（『古事記』に出てくる最初の神は「天の御中主神」、『日本書紀』では「国常立尊」）などです。

このように歴史学の専門家さえわからない事柄に、専門外の人が挑戦するのは無謀と思われるかもしれませんが、私はかつて機械工学の研究に化学系の人活躍したのを知っているのです。機械に使う材料の研究に化学系の人参加の機会は大いにあるのです。

ですから、理工系の手法を用い、歴史学者とは異なった考え方で追及すれば何かしら見えてくることもあるのではないかなと思ったのです。

「記紀」も何かしらの真実を伝えているとして、『三国志』『記紀』『考古学的知見』『現在に引き継がれている事実』をどのように解釈すれば「話がつながるか」つまりつじつまが合うかを考えたのが、この書です。

特別寄稿

考古学は古代人の生活の様子がわかり、事実を証拠だてることができるという点で、非常に大事な学問ですが、「人間の歴史は人間の思惑と行動でつくられてきたものです」。その人間の思惑と行動がすべて大地に残るものではありません。たとえば、関ヶ原の古戦場跡を見たとき、結果を知らない外国人は誰しも西軍の圧勝を推論するといえます。

古代史を考えると、歴史小説家がよく行っているように、当時の人々、とくに歴史を作った人々が何を考え行動したのかを推論することは重要な要素になると思います。NHKBS番組「英雄たちの選択」は、岐路に立った英雄たちがどう考えるべきであったかを検討する番組です。

魏から倭国の救援のために派遣された張政、「記紀」の原資料となった話の作者、元明天皇は何のために『古事記』の編纂を命じたのか、『日本書紀』編纂を命じた天武天皇、その完成までに関わった諸天皇や大臣は何を考えていたのだろうかなどを、この書では推論しています。過去、このようなことを推論した研究者はほとんどいないのです。

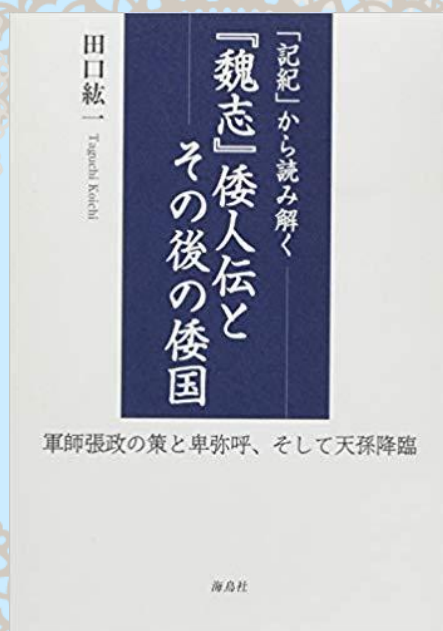
そうすると、今までの研究者が見過ごしていた事柄が意外に多いこともわかり、謎とされてきた多くの事柄の大部分を説明することができました。

私の説が他と大きく異なる点はたくさんありますが、起点は、陳寿は皇帝の宮殿にあるいくつかの倭国に関する史料を見て「倭国像」を作り上げたということ、倭国救援に来た張政は大勝利を挙げたに違いなくその戦略を考えたこと（実はこれに数年かかりました）、卑弥呼登場前の「倭国乱れる」の記事は百年から百五十年の間隔で繰り返し発生している「南海トラフの大地震」が起き大津波が瀬戸内海を襲ったためと考えたこと（地震の起ったことは地震研究者が証明しています）などです。

人の思惑と行動を推論するのですから、いろいろな論が出るのは必定です。

また、使った資料、特に「記紀」には矛盾することが記されているところもあり、専門家の間でも信用度が低く、これをもとに「つじつま」が合うからといって真実とはなかなかいえないわけですが、「広範囲にわたってつじつまが合う」ことは真実であることの必要条件になります。どれを真実と考えるかによって話はいくつもできると思います。

もし、謎解きが好きでこの方面に興味がおありならば挑戦してみてはいかがでしょうか。



図書館統計

■平成30年度利用状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開館日数	23	22	26	19	28	15	25	22	17	20	21	12	250
入館者数 総数	4,013	5,684	4,786	4,642	2,132	912	4,214	5,047	2,758	3,449	3,182	607	41,426
(内夜間)	404	998	539	734	230	0	600	1,005	379	587	534	0	6,010
(内土曜日)	256	135	256	110	165	0	80	181	53	72	132	0	1,440
1日平均	174.5	258.4	184.1	244.3	76.1	60.8	168.6	229.4	162.2	172.5	151.5	33.7	165.7
貸出冊数 総数	329	242	225	1,280	141	56	324	215	285	289	206	106	3,698
(内夜間)	57	43	62	223	25	0	43	50	48	85	40	0	676
(内土曜日)	30	15	9	6	0	0	8	4	0	2	6	0	80
1日平均	14.3	11.0	8.7	67.4	5.0	3.7	13.0	9.8	16.8	14.5	9.8	8.8	14.8

■分類別図書貸出冊数の推移

年 度	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学(*1)	産業	芸術	語学	文学	多読	その他(*2)	合計
平成26年度	60	24	89	68	561	892	5	53	181	595	-	1,258	3,786
平成27年度	0	49	39	53	149	1,596	6	44	115	671	2,039	1,078	5,839
平成28年度	0	45	50	46	176	1,353	7	80	222	560	3,752	575	6,866
平成29年度	26	36	20	18	126	932	7	39	26	458	1,705	709	4,186
平成30年度	19	29	32	45	178	871	3	67	60	331	1,163	900	3,698

*1 H27年度以降の「工学」は、007情報科学、430-439化学、460-469生物一般の貸出冊数が含まれる

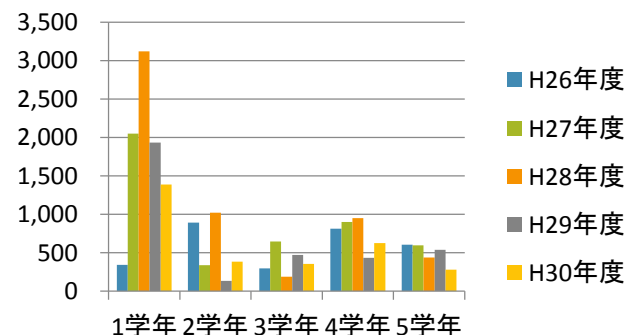
*2 「その他」は、文庫・新書および雑誌の貸出冊数を示す

■利用状況の推移

年度	開館日数	利用登録状況				入館者数		貸出冊数				1日当たりの数値		1人当たりの数値	
		総数	(内学生)	(内教職員)	(内学外利用者)	総数	(内夜間、土曜日)	総数	(内学生のみの貸出冊数)	内夜間、土曜日	(内学外利用者)	1日当たり入館者数	1日当たり貸出冊数	学生1人当たり貸出冊数	利用者1人当たり貸出冊数
平成26年度	269	1,277	1,082	120	75	51,758	11,216	3,786	3,362	1,064	189	192.4	14.1	3.1	3.0
平成27年度	271	1,346	1,085	250	11	51,233	13,137	5,839	5,293	1,448	546	189.1	21.5	5.4	4.3
平成28年度	260	1,428	1,138	277	13	60,822	9,376	6,866	6,392	1,286	82	233.9	26.4	6.0	4.8
平成29年度	254	1,340	1,140	188	12	48,316	8,070	4,186	3,865	715	106	190.2	16.5	3.7	3.1
平成30年度	250	1,301	1,105	186	10	41,426	7,450	3,698	3,425	756	7	165.7	14.8	3.1	2.8

■学年別図書貸出冊数

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	専攻科1年	専攻科2年	合計
平成26年	345	894	296	815	604	—	—	2,954
平成27年	2,052	341	646	903	599	506	246	5,293
平成28年	3,120	1,021	190	951	441	377	292	6,392
平成29年	1,933	134	472	433	541	180	172	3,865
平成30年	1,389	383	355	627	279	256	137	3,426



編集後記

11月16日(土)に図書館棟1階 美術ギャラリーの作品入替が予定されています。美術ギャラリーの作品を堪能したら、ぜひ2階の図書館へおいでください。この秋、あなたの気に入る一冊をじっくり探してみませんか。

ご寄稿に際しまして、田口先生、森先生に心より御礼申し上げます。 [図書館 新里]